

令和5年度行政事業レビューシート

(国土交通省)

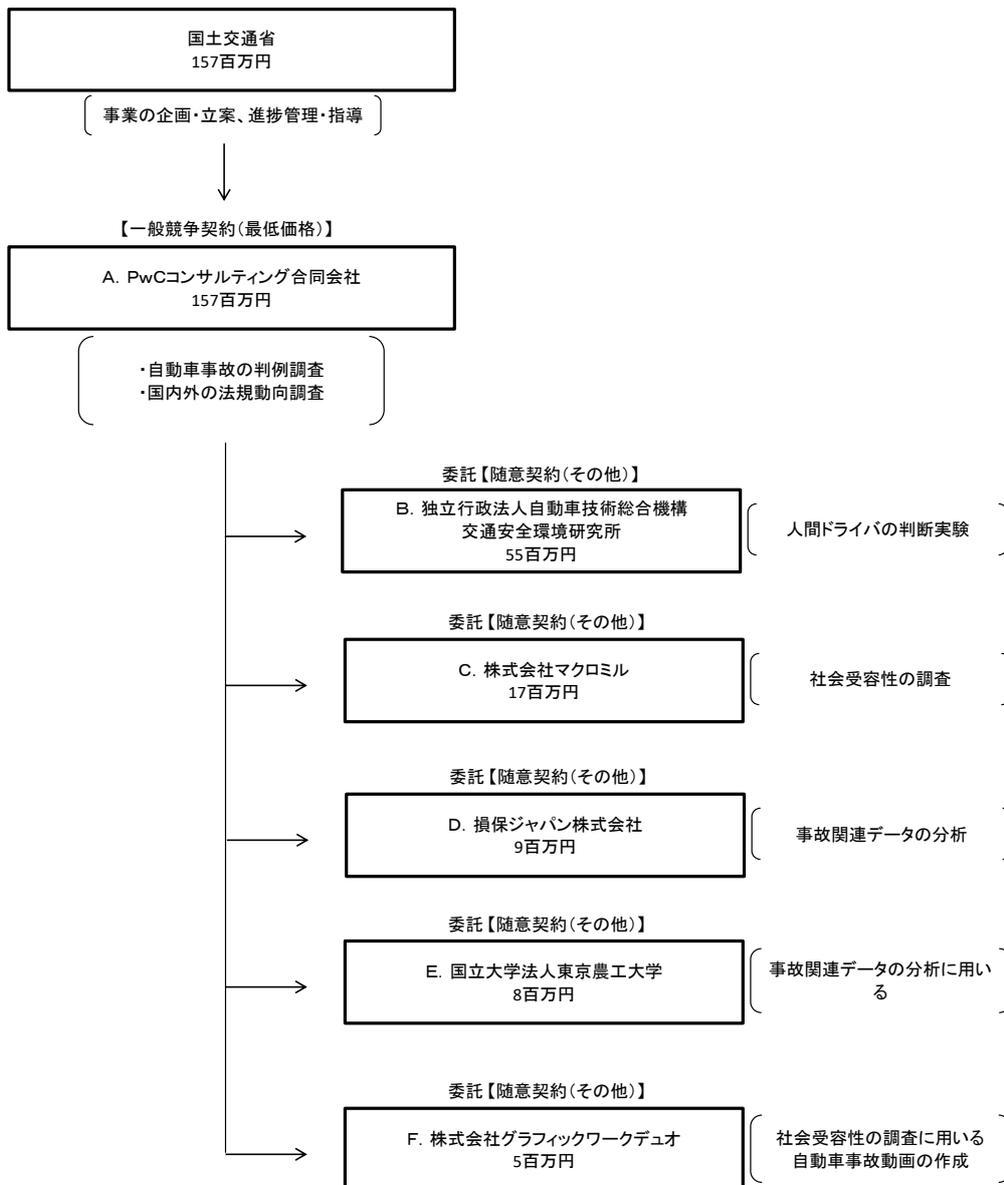
事業名	自動運転(レベル4)法規要件の策定			担当部局庁	自動車局	作成責任者	
事業開始年度	令和4年度	事業終了(予定)年度	令和8年度	担当課室	技術・環境政策課	課長 久保田 秀暢	
会計区分	自動車安全特別会計自動車検査登録勘定						
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	道路運送車両法第41条			関係する 計画、通知等	新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画・フォローアップ (2022年6月7日閣議決定) デジタル田園都市国家構想総合戦略(2022年12月23日閣議決定)		
政策	5 安全で安心できる交通の確保、治安・生活安全の確保			主要経費	その他の事項経費		
施策	17 自動車の安全性を高める						
政策体系・評価書URL	https://www.mlit.go.jp/seisakutokatsu/hyouka/seisakutokatsu_hyouka_tk_000037.html						
事業の目的 (5行程度以内)	<p>本事業では、①自動運転に対する社会受容性の形成、②技術レベルに応じた段階的な自動運転の社会実装を目的として、以下の取組みを実施することとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会受容性の形成のため、システムの責任範囲とシステム判断のあり方の両面から、社会が受け入れられる自動運転車の安全水準を明確化 段階的な自動運転の社会実装のため、車両の性能に応じた必要な走行環境のあり方等を明確化 これらの成果をガイドラインとしてとりまとめ、自動運転の社会実装に取り組む関係者に公表 <p>また、日本の自動運転技術の国際競争力を確保するため、本事業で策定したガイドラインを国際基準に反映。</p>						
現状・課題 (5行程度以内)	<p>我が国では、諸外国と比較して自動運転車による事故に対する目が厳しく、公道走行に際し、社会が受け入れられるレベルまで十分な安全性を確保して安心感(社会受容性)を形成することがより一層求められる傾向。</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会受容性の形成を図るためには、自動運転車に求められる安全水準を明確化しながら、社会実装を進めていくことが必要。具体的には、自動運転車による事故回避が困難な事象について、社会が受け入れ可能なシステムの責任範囲・システムによる判断のあり方を検討することが必要。 自動運転技術は、まだ開発段階の技術であり、あらゆる走行環境で安全に走行が行える技術水準に至っていないため、技術レベルに応じ、段階的な社会実装を進めることが必要。具体的には、車両の性能に応じ、安定して安全運行できる走行環境を整備するとともに、技術開発の進展に沿って段階的に複雑かつ一般的な走行環境へ拡張していくことで社会受容性を形成することが必要。 また、我が国の基幹産業である自動車産業の国際競争力を強化するためには、自動運転技術をはじめ、日本の優れた技術を国際基準に繋げることが必要不可欠。 						
事業概要 (5行程度以内)	<p>本事業では、①自動運転に対する社会受容性の形成、②技術レベルに応じた段階的な自動運転の社会実装を目的として、以下の取組みを実施することとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会受容性の形成のため、システムの責任範囲とシステム判断のあり方の両面から、社会が受け入れられる自動運転車の安全水準を明確化 段階的な自動運転の社会実装のため、車両の性能に応じた必要な走行環境のあり方等を明確化 これらの成果をガイドラインとしてとりまとめ、自動運転の社会実装に取り組む関係者に公表 <p>また、日本の自動運転技術の国際競争力を確保するため、本事業で策定したガイドラインを国際基準に反映することを通じ、日本の自動運転技術の国際競争力の強化を図ることとしている。</p>						
事業概要URL	-						
実施方法	委託・請負						
補助率等	-						
予算額・ 執行額 (単位:百万円) (インプット)	予算の 状況	当初予算(A)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度要求
		補正予算(B)	-	-	-	-	-
		前年度から繰越し(C)	-	-	-	-	-
		翌年度へ繰越し(D)	-	-	-	-	-
		予備費等(E)	-	-	-	-	-
		計(F) =(A)+(B)+(C)+(D)+(E)	-	-	179	184	-
		執行額(G)	-	-	157	-	-
		執行率(%) =(G)/(F)	-	-	88%	-	-
		当初予算+補正予算に対する執行額 の割合(%) =(G)/[(A)+(B)]	-	-	88%	-	-
		歳出予算項目	令和5年度当初予算	令和6年度要求	主な増減理由(・要望額・予備費)		
(項)	業務取扱費						
(目)	自動車検査基準策定調査等委託費	184					
	その他						
	計(A)	184					

活動内容① (アクティビティ)		無人自動運転移動サービス実現に向けて、人間ドライバーの運転特性等を踏まえた、社会が受入れ可能なシステム責任やシステム判断のあり方を整理 ・自動運転車が安定して安全運行できる走行環境の整備に関する関係者の役割等を整理 ・これらの成果をガイドラインとしてとりまとめるとともに、技術開発の進展に沿って段階的に改定。								
↓										
活動目標及び活動実績 ① (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
		民間企業による技術開発の進展に沿って、より複雑かつ一般的な環境へと段階的にガイドラインを策定・改定	ガイドラインの策改定数	活動実績	件	-	-	-		
				当初見込み	件	-	-	-	1	
↓		成果目標①-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり) 事業者による技術開発だけでは解決できない以下のような課題が存在 ・技術開発の指針となる自動運転車に要求される安全水準について、明確な規定がない ・安全性について自治体や住民の理解を得る必要(社会受容性の形成) ガイドラインを示すことで、技術開発や地域住民との合意形成の方向性が明確化								
成果目標及び成果実績 ①-1 (短期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 2023 年度	
		自動運転移動サービスの実現に向けた自動運転の実証事業の拡大	自動運転の実証事業の実施件数	成果実績	件	-	-	12		
				目標値	件	-	-	10	30	
				達成度	%	-	-	120		
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		(指標の定義) 日本国内で行われている無人自動運転移動サービスの実証実験件数								
↓		成果目標①-2の 設定理由 (短期アウトカム からのつながり) 実証を通じた①安全性の向上、②地域理解の促進、③事業性の確立								
成果目標及び成果実績 ①-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 2027 年度	
		自動運転移動サービスの社会実装	無人自動運転移動サービスの社実現件数	成果実績	件	-	-	-		
				目標値	件	-	-	-	100	
				達成度	%	-	-	-		
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績										
アウトカム設定について の説明		アクティビティ①について定性的なアウトカムを設定している理由 アクティビティ①についてアウトカムが複数設定できない理由								

活動内容② (アクティビティ)	・無人自動運転移動サービス実現に向けて、人間ドライバーの運転特性等を踏まえた、社会が受入れ可能なシステム責任やシステム判断のあり方を整理 ・自動運転車が安定して安全運行できる走行環境の整備に関する関係者の役割等を整理 ・これらの成果をガイドラインとしてとりまとめるとともに、技術開発の進展に沿って段階的に改定。																													
↓																														
活動目標及び活動実績② (アウトプット)	活動目標 民間企業による技術開発の進展に沿って、より複雑かつ一般的な環境へと段階的にガイドラインを策定・改定	活動指標 ガイドラインの策改定数	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="842 264 935 331">活動実績</td> <td data-bbox="935 264 995 331">件</td> <td data-bbox="995 264 1098 331">-</td> <td data-bbox="1098 264 1200 331">-</td> <td data-bbox="1200 264 1302 331">-</td> <td data-bbox="1302 264 1401 331">-</td> <td data-bbox="1401 264 1503 331">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="842 331 935 369">当初見込み</td> <td data-bbox="935 331 995 369">件</td> <td data-bbox="995 331 1098 369">-</td> <td data-bbox="1098 331 1200 369">-</td> <td data-bbox="1200 331 1302 369">-</td> <td data-bbox="1302 331 1401 369">1</td> <td data-bbox="1401 331 1503 369">-</td> </tr> </table>	活動実績	件	-	-	-	-	-	当初見込み	件	-	-	-	1	-	単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込							
活動実績	件	-	-	-	-	-																								
当初見込み	件	-	-	-	1	-																								
↓	成果目標②-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり) 本事業の成果をもとに、レベル4自動運転技術とその安全性評価手法について、WP29での国際基準の策定を主導																													
成果目標及び成果実績②-3 (長期アウトカム)	成果目標 自動運転に係る国際基準の策定	定量的な成果指標 国際基準の策改定数	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="842 589 935 656">成果実績</td> <td data-bbox="935 589 995 656">件</td> <td data-bbox="995 589 1098 656">-</td> <td data-bbox="1098 589 1200 656">-</td> <td data-bbox="1200 589 1302 656">-</td> <td data-bbox="1302 589 1401 656">-</td> <td data-bbox="1401 589 1503 656">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="842 656 935 707">目標値</td> <td data-bbox="935 656 995 707">件</td> <td data-bbox="995 656 1098 707">-</td> <td data-bbox="1098 656 1200 707">-</td> <td data-bbox="1200 656 1302 707">-</td> <td data-bbox="1302 656 1401 707">1</td> <td data-bbox="1401 656 1503 707">-</td> </tr> <tr> <td data-bbox="842 707 935 741">達成度</td> <td data-bbox="935 707 995 741">%</td> <td data-bbox="995 707 1098 741">-</td> <td data-bbox="1098 707 1200 741">-</td> <td data-bbox="1200 707 1302 741">-</td> <td data-bbox="1302 707 1401 741">-</td> <td data-bbox="1401 707 1503 741">-</td> </tr> </table>	成果実績	件	-	-	-	-	-	目標値	件	-	-	-	1	-	達成度	%	-	-	-	-	-	単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 2026 年度	
成果実績	件	-	-	-	-	-																								
目標値	件	-	-	-	1	-																								
達成度	%	-	-	-	-	-																								
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績																														
アウトカム設定について の説明	アクティビティ②について定性的なアウトカムを設定している理由																													
	アクティビティ②についてアウトカムが複数設定できない理由																													

事業に関連するKPIが定められている閣議決定等	名称	新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画・フォローアップ(2022年6月7日閣議決定) デジタル田園都市国家構想総合戦略(2022年12月23日閣議決定)	
	URL	https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/atarashii_sihonsyugi/pdf/fu2022.pdf https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/digital_denen/pdf/20221223_honbun.pdf	
該当箇所	新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画・フォローアップ【36頁】 デジタル田園都市国家構想総合戦略【138頁】		
事業所管部局による点検・改善			
点検結果	<p>○国費投入の必要性／事業の有効性 自動運転車の安全基準策定を担う国土交通省として、日本社会における受容性を踏まえた自動運転車の安全性に関する国際基準を策定することが必要。</p> <p>○事業の効果 令和4年度の事業の調査結果を活用して、令和5年3月には国内初となるレベル4の自動運転車を認可したところ、まさに政策効果が発現したものと認識している。</p>		目標年度における効果測定に関する評価(令和9年度実施)
	<p>○今後の方針 令和4年度事業においては、自動車の安全・環境基準の策定に係る調査研究を担う独立行政法人自動車技術総合機構交通安全環境研究所と連携してドライビングシミュレータの実験を行っているほか、実験場面(交通シナリオ)の選定等において民間事業者へヒアリング等を実施するなど、民間事業者等と連携しながら事業を実施。引き続き、効率的かつ効果的に事業を進めるため、民間事業者等とも緊密に連携しつつ事業を進めていく。</p>		
改善の方向性			
外部有識者の所見			
行政事業レビュー推進チームの所見に至る過程及び所見			
(選択してください)			
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況			
(選択してください)			
過去に受けた指摘事項と対応状況	公開プロセス・秋の年次公開検証(秋のレビュー)における取りまとめ		
	令和5年度公開プロセス対象事業		
	上記への対応状況		
	令和5年度公開プロセス対象事業		
	その他の指摘事項		
	上記への対応状況		
備考			

※令和4年度の実績を記入



資金の流れ
(資金の受け取り先が
何を行っているかにつ
いて補足する)
(単位：百万円)

費目・使途 (「資金の流れ」において ブロックごとに最大の金額が 支出されている者について記載 する。費目と使途の双方で実情が 分かるように記載)	A.			B.		
	費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
	事業費	自動車事故の判例調査等	63	事業費	人間ドライバの判断実験	55
	委託費	人間ドライバの判断実験(独立行政法人自動車技術総合機構交通安全環境研究所)	55			
	委託費	社会受容性の調査(株式会社マクロミル)	17			
	委託費	事故関連データの分析(損害保険ジャパン株式会社)	9			
	委託費	事故関連データの分析に用いるデータの提供(国立大学法人東京農工大学)	8			
	委託費	社会需要性調査に用いる自動車事故動画の作成(株式会社グラフィックワークデュオ)	5			
	計		157	計		55
	C.			D.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)	
事業費	社会受容性の調査	17	事業費	事故関連データの分析	9	
計		17	計		9	
E.			F.			
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)	
その他	事故関連データの分析に用いるデータの提供	8	事業費	社会需要性調査に用いる自動車事故動画の作成	5	
計		8	計		5	
費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載					チェック	

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	PwCコンサルティング合同会社	1010401023102	自動車事故の判例調査等	157	一般競争契約 (最低価格)	2	85.6%	-

B

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	独立行政法人自動車技術総合機構交通安全環境研究所	1011105001930	人間ドライバの判断実験	55	随意契約(その他)	-	-	-

C

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	株式会社マクロミル	9010001157227	社会受容性の調査	17	随意契約(その他)	-	-	-

D

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	損害保険ジャパン株式会社	4011101023372	事故関連データの分析	9	随意契約(その他)	-	-	-

E

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	国立大学法人東京農工大学	1012405001281	事故関連データの分析に用いるデータの提供	8	随意契約(その他)	-	-	-

F

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	株式会社グラフィックワークデューオ	1010401061837	社会需要性調査に用いる自動車事故動画の作成	5	随意契約(その他)	-	-	-
支出先上位10者リスト欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙3】に記載							チェック	